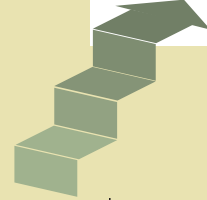


# 高崎山龍廣寺

井伊直政の信頼厚く山号を賜る



## 「高崎」という地名がついた舞台

高崎のまちなかには古刹が多い。慶

長3年（1598）に井伊直政が箕輪から交通の要衝・高崎に城を移した際に、箕輪城下のまちがそっくり高崎へと移り、高崎城や城下を囲むように寺が置かれている。

高崎城下の南、聖石橋を望む若松町の台地に「高崎山龍廣寺」があり、山号の高崎山は、「高崎」の由来に深く関わっていると伝えられている。

### ●住職が直政に「高崎」の地名を進言

高崎は、鎌倉時代まで「赤坂の荘」と呼ばれ、1428年に和田氏が城を築いてから「和田宿」となった。まちなかには和田時代から残る寺社も多い。



◀「高崎山」が掲げられた山門



◀元ロシア人兵士の墓

城を箕輪から和田の地に移した直政は、地名を改めようと思案し、城内の西方、烏川崖上に立派な松があつたので「松ヶ崎」にしようと思ひ立った。さっそく直政は、信頼を厚く寄せる龍廣寺

の白庵和尚に相談したところ、「松は枯れるので良くないでしょう」と言う。白

庵和尚が「新天地で事業が成功するよう、成功高大の意から高崎としてはどうでしょう」と進言したところ、直政は大変感銘を受け「高崎」に決め、龍廣寺に高崎山の山号を与えたという。また直政は、城地鎮護のため白庵に千人法幢を行わせている。

高崎の由来にはいくつか伝承があり、進言したのは恵徳寺の英潭和尚、鷹を放つて城地を決めたので「鷹ヶ崎」となり高崎に転じたという説も残っている。また、直政が移ってくる前、和田時代から高崎という地名が使われていたともされている。

### ●鬼城と日露戦争の捕虜兵士も眠る

「高崎山」が掲げられた山門をくぐり、龍廣寺の境内に入ると、本堂の左に鐘楼があり風格を漂わせている。現在も朝6時と午後5時に鐘がつかれ、平穏な一日を刻むように周辺に鐘の音が響き渡る。鐘は室町時代の铸造と見られている。

鐘楼の奥が墓所となっているが、ここには、俳聖・村上鬼城と、日露戦争で

捕虜となった3人のロシア人兵士が眠っている。

村上鬼城は俳誌「ホトトギス」を代表する俳人として活躍し境涯の俳人と呼ばれた。慶応元年（1865）生まれ、昭和13年に73歳で生涯を終えた。境内には鬼城句碑「大寺や松の木の間の時雨月」が建立されている。

龍廣寺の墓所奥には陸軍墓地があり、そのかたわらに「元ロシア人兵士の墓」がある。西洋式の平らな3基の墓碑には中央に十字架、上部にロシア語で銘文が記され、左右に日本語で所属、階級、年齢、没年が刻まれている。

日露戦争に出兵した高崎15連隊は、10人のロシア軍捕虜を連れて戻り、龍廣寺に抑留した。そのうち傷病兵の3人が亡くなり、ここに葬られた。第2次世界大戦中は破壊されるのでないかと心配し地下に埋め隠されたこともあったが、昭和51年、日ソ協会高崎支部、龍廣寺住職などにより改修されている。日本の寺院に西洋式の墓碑。不思議な違和感は、明治以来高崎15連隊が存在した証を今に伝えている。鬼城の墓、元ロシア兵士の墓とともに高崎市指定文化財。